

INFORMATION

維新演劇シアター新作上演

好評いただいております「維新演劇シアター」、1月は第3弾「西郷さん渋沢さんパリ万博道中記」と題して新作の上演です!渋沢さんが西郷さんとパリ万博でのさまざまな出品において“日本一”を競います。



また、2月は☆千秋楽3DAYs☆第1弾から第3弾まで日替わりで上演します。



時空を超えて明治維新を楽しく体感できる充実した内容です。皆様のお越しをお待ちしております。

上演スケジュール

2022年【西郷さん渋沢さんパリ万博道中記】

1月2日(日)・8日(土)・9日(日)・23日(日)・30日(日)(5回)

2022年「千秋楽3DAYs」

【明治維新ラブソディ2021】2月11日(金・祝)

【小松帯刀の家老はつらいよ】2月12日(土)

【西郷さん渋沢さんパリ万博道中記】2月13日(日)

〈上演時間〉上演日の12:30~13:00(30分間)

〈会場〉維新ふるさと館 地階「維新体感ホール」

温故地新

ふる故きをたず温ね、地元を新たに。

■維新ふるさと館歴史講座 開講

11月14日(日)15日(月)の2日間、歴史講座「知られざる加治屋町の偉人～田代安定～」を開催しました。約8ヶ月ぶりに開催された講座は、80名の方々が受講し、熱心に耳を傾けていました。

受講者からは「全く聞いたことのない人でしたが、業績内容・活動範囲が素晴らしい」「西郷・大久保の次世代の活躍を知ることができた」などの声をいただきました。

次回の歴史講座は2月18日(金)19日(土)を予定しています。郷土の歴史について、知識を深めてみませんか?皆さまのご応募お待ちしています。



■「島津家発展の足跡をたどる」史跡めぐりバスツアー

11月24日(水)、島津家発展の基を築いた忠良・貴久親子が勢力基盤とした南薩の地で、その足跡をたどるバスツアーを開催しました。

竹田神社の「いにしえの道」では石碑に一つ一つ刻まれた日新

第2回かごしま折々あそび展 開催中



▲おりがみあそび

▲ことばあそび



12月2日(木)~2022年1月10日(月・祝)まで、かごしま折々あそび展を開催中です。

今回の展示は、鮮やかな門松を携えた御楼門や2022年の干支「寅」など、新春の風を感じる折り紙作品が勢揃い!また、会期中の土日祝は折り紙で羽子板やコマを折ったり、「鹿児島弁ピクトグラム」の面白さを紹介するお話しも開催。年明けの1月8日(土)9日(日)はコマまわしも体験できます。



第3回かごしま折々あそび展は、2月19日(土)~3月21日(月・祝)の開催です。春の訪れを、維新ふるさと館で感じてみませんか?

明治維新を分かりやすく、楽しく 維新 ISHIN 2022 WINTER 維新ふるさと館情報紙/No.39



桜島からのぼる朝日に輝く錦江湾

(鹿児島市城南町)

前が必要だったのです。

では、なぜ鹿児島湾が錦江湾と呼ばれるようになったのでしょうか。一般的には、薩摩藩主島津家が詠んだ和歌「浪のおりかかる錦は磯山の梢にさらす花の色かな」が起源だと言われます。「加治木郷土誌」の中で加治木島津家第6代当主久徳(ひさなる)が著した『黒川記』に「家久公の歌に錦波の二字が用いてあり、前の海を錦江と呼び、山上の花の色が逆さまに影を汀に写す眺めがあるから、別に錦江と号す」という意味のことが書いてあり、家久公の歌から錦江湾の名が起きたと言われています。三国名勝団会には「この川、又は錦江」とあり、黒川の別名が「錦江」と呼ばれていたということ、また別に、黒川もしくは黒川の前の海が湾全体を指しているのかなど詳細については諸説ありますが、ともかく錦江湾という文学的表現が鹿児島の人的心情にあったものであるのは間違いないなさそうです。

桜島に昇る朝日を写す錦江湾のたおやかな姿を見ると、令和4年も良い年であるように感じます。

(文・肥後秀昭維新ふるさと館歴史解説員)

明治維新偉人 クロスワード

維新伝

総新伝心

新年あけましておめでとうございます。維新ふるさと館は、今年も【維新伝心】。維新の心をわかりやすく、楽しく伝えています。

早速、新春特別企画「明治維新偉人クロスワード」をお楽しみください。タテの力ギは西郷隆盛に関連すること、ヨコの力ギは大久保利通に関連することです。

正解者には抽選で素敵な景品をプレゼントします♪



【席幕方法】---

ハガキに

- ①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号
を記入し、「維新ふるさと館 クロスワード係」宛に送る

〔応募締切〕---

令和4年1月17日(月)必着

【送り先・問い合わせ】

〒892-0846 鹿児島市加治屋町23-1

鹿児島市維新ふるさと館「クロスワード」係

TEL 099-239-7700
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいた方の個人情報は、景品の抽選・発送のみに使用いたします。

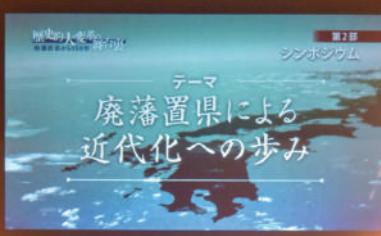


タテのかぎ【西郷隆盛に関すること】



ヨのかぎ【大久保利通に関すること】

- ① 明治7年(1874)警視庁発足に伴い、○○○○○○○○が初代大警視となる
 - ② 明治11年(1878)宮内省に赴く途中の○○○○○○で不平士族に暗殺される
 - ③ 明治5年(1872)岩倉使節団で訪米中、のちの文部大臣○○○○○と出会う
 - ④ 明治7年(1874)台湾征討のための運搬船を土佐出身の○○○○○○○に借りる
 - ⑤ 元治元年(1864)薩摩藩開成所の英語教師に土佐の中浜○○○○○を招く
 - ⑥ 文久3年(1863)薩英戦争の原因となった文久2年の○○○○○○○を解決する
 - ⑦ 文久元年(1861)国父と呼ばれた○○○○○○○○の側近として抜擢される
 - ⑧ 明治10年(1877)政府の政策に従わない、鹿児島県を批判する山口出身の○○○○○○○と激論する
 - ⑨ 明治元年(1868)江戸を○○○○○と改称、首都機能を移すことを提案する
 - ⑩ 嘉永3年(1850)おゆら騒動により、父利世が○○○○○に遠島となる



A photograph showing three men in dark suits and ties seated behind a long, light-colored wooden table. The man on the left is looking towards the center, while the two on the right are looking towards the camera. The setting appears to be a formal hearing or meeting room.

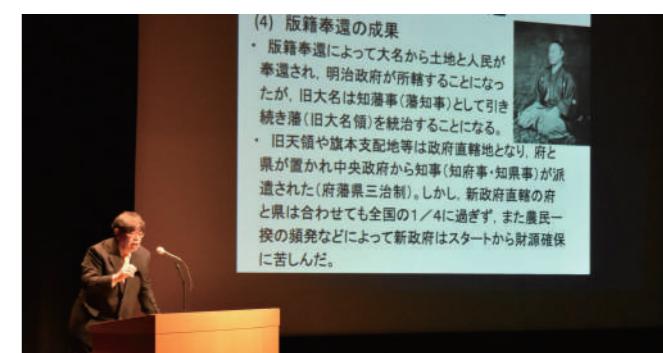
「歴史シンポジウム」開催!

12月11日(土)サンエールかごしまにて、歴史シンポジウムを開催しました。廃藩置県150周年を迎えた本年は、「廃藩置県から150年 歴史的大変革の舞台裏」と題し、前県明治維新150周年推進室専門員、現県立開陽高等学校教頭の吉満庄司氏、黎明館調査史料室学芸専門員の市村哲二氏をゲストに迎え、封建制から中央集権国家建設に関わった鹿児島の人々の動きを、明らかにしていきました。

第1部では「版籍奉還から廃藩置県への歩みと鹿児島の動き」をテーマに、吉満氏より基調講演をしていただき、第2部では吉満氏、市村氏に前維新ふるさと館特別顧問の福田賢治氏を交え、当館歴史解説員の肥後秀昭がコーディネーターとして、「廃藩置県による近代化への歩み」をテーマにシンポジウムを行いました。

それぞれの立場から、廃藩置県の断行までとその後の展開について意見を語っていただき、熱い討論が交わされました。参加者の方からは、「西郷、大久保だけではなく、島津久光、桂久武らの動きを知ることができて、大変興味深く、面白かった」「廃藩置県のもつ意味を改めて考えるよい機会となつた」「エピソードを含めた歴史秘話が聴けて勉強になつた」などの声をいただきました。

来年度も皆さんに面白い、楽しいをお届けできるよう努めてまいります!



▲第1部 基調講演／吉満庄司氏



▲第2部 シンポジウム